



絆（きずな）

目指す児童像

- やさしい子
- よく考える子
- ふるさと思いの子

Society5.0を生き抜く力 ～11月の校長講話より～

Society5.0。最近、よく耳にする言葉です。内閣府のホームページには次のように書いてあります。

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）

これから児童たちが生きていく社会です。11月の校長講話では、Society5.0と情報モラルを両立させるために必要な力について話しました。

Society 5.0（ソサエティ5.0）

エーアイ じんこうちのう

AI（人工知能）

あいおーていー

IoT（モノのインターネット）



べんりてゆたかなよのなか

最初に動画を見せました。政府広報の動画（短縮版。以下のQRコードからアクセスすると完全版をご覧ください。）です。AI（人工知能）とIoT（モノのインターネット）が発達した社会、便利で豊かな社会が描かれています。Society5.0を生き抜くためには、情報を正しく活用する力が不可欠です。

左のスライドは、夏休み終了後に実施した我が家のスマートルールに関するアンケート調査（児童向け）の結果の一部です。夏休み中に、親子で決めた我が家のスマートルールを守れたと答えた児童は約半数でした。インターネットには暗の部分もあります。例えばスマホ依存、スマホいじめ、違法サイトからの法外な請求などです。今後、インターネットを正しく使う力がますます重要になっています。

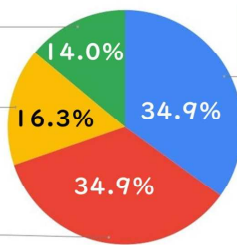
児童精神科医の吉川徹氏は子どもがインターネット（特にゲーム）を使う際の留意点として以下のように述べています。

「目標はゲームの時間を短くすることではなく、時間を自分でコントロールできるようになること、つまりつかうのをおしまいにする力を身に付けることではないでしょうか。」

さらに、「ネットやゲームについての約束は子どもには守れない」とし、親が寄り添いながら根気よく

自分で自分をコントロールする力を育成していくことの大切さを説いています。情報活用能力と情報モラルを両輪のように育てていくことが求められているのです。親子で我が家のスマートルールを使って約束をして成長と共にルールを緩めていき、最終的には子ども自身が自分で「使うのをおしまいにする力」を身に付けることが重要ですね。

なつやすみちゅう、スマートルールをまもってせいかつできましたか



- まいにちできた
- だいたいできた
- すこしできた
- できなかった

インターネット（スマホ）

こころとからだのバランスが崩れることがある。

「もくひょうはゲームのじかんをみじかくすることではなく、じかんをじぶんでコントロールできるようになること、つまりつかうのをおしまいにするちからをみにつけることではないでしょうか。」

よしかわとむら
吉川徹さん
(児童精神科医)

使用したスライドの一部